

平成24年5月(春)号

発行：三重耳鼻咽喉科 荏司邦夫・坂井田麻祐子

津市観音寺町 445-15

Tel: 059-228-0100 Fax: 059-228-0133

ホームページ：<http://www.miejibika.com/>携帯サイト：<http://www.miejibika.com/i/>

＜耳あかのはなし＞

子供さんから大人の方まで、耳あかを取って欲しいと来院して下さる方はたくさんいらっしゃいます。身近な耳あかですが、実はいろいろおもしろい話があります。

まず、耳あかの質が人によって違うのはご存知でしょうか。「カサカサ」タイプか「ネバネバ」タイプかで分けられます。これは優性遺伝と言われており、ネバネバした耳あかの親御さんがいる場合は、子供の誰かが同じ体質を受け継ぎます。

「カサカサ」タイプの方は、耳あかと言うよりも、耳の道の皮膚が古くなってはがれ落ちたものです。それほど耳の中にたまりませんし、はがれれば外に自然に落ちます。耳掃除も、2、3週間に1回くらい、綿棒で入り口だけを拭きます。やり過ぎると、薄い耳の皮膚を傷つけてしまいますので、ほんの時々にしてください。

「ネバネバ」タイプの耳あかの方は、耳の皮膚にある汗や皮脂の分泌腺が多いため湿った感じの耳あかになります。たまりやすいので、割と頻繁に取らないと詰まってしまいます。綿棒で拭き取るように掃除をしてください。この時、入り口から綿棒の頭が入るくらいまでの深さで、奥から手前に拭うように取ることがポイントです。クルクルと回すだけだと、奥に詰めてしまい、次第に団子状に固まってしまいます。ある程度までは症状が出ませんが、溜まった耳あかの上に、シャワーの水などが

入って耳あかがふやけてしまうと、急に隙間がなくなって全く聞こえないような状態になることがあります。家族の人に時々耳の穴をのぞいてもらって、溜まってきたら耳鼻科へ取りに来てください。

インターネットで耳あかについて調べてみると、この、カサカサとネバネバは、人種や地域によって分布が異なるようです。日本を含め、中国や韓国では、ほとんどがカサカサであるのに対し、白人や黒人は、ほとんどがネバネバです。ただ、日本の中でも北海道や沖縄では、5割ほどの人がネバネバで、本州はカサカサが多いとのこと。これは、もともと日本に住んでいた縄文人はネバネバ耳で、やがてカサカサ耳の弥生人が本州に入ってきたことで、その影響がなかった北海道と沖縄はネバネバ耳が多く残るというわけです(Wikipedia 参照)。耳あかで古代の人種とのつながりを感じるというのも、不思議な気がしますね。

* こんな耳あかも！ *

耳垢あかを取ると、いろんな形があります。

- ・ 靴下のかたち：入り口から鼓膜まで、鑄型にはめたように出てくる耳あか。
- ・ 団子のかたち：入り口でまん丸に固まった耳あか。
- ・ じゃばらのかたち：入り口から鼓膜の近くまで、折りたたまれたようになった耳あか。引っ張るとびろびろ〜んと出てきます。
- ・ 砂粒のかたち：鼓膜の上に砂をばらまいたようにある耳あか。たいていは、耳掃除のしすぎで、入り口の耳あかが粉状になったもの。吸い取って取ります。
- ・ 土手みみたいなかたち：耳の入り口をぐるりと囲み、がっちり固まった耳あか。家では取りにくいです。
- ・ 膜状：鼓膜の上に一枚膜が張ったようにある耳あか。薬で溶かして吸い取ります。

<耳がかゆい>

暖かくなり、汗ばむ日も出てきました。

このような時期から、耳がかゆくなる方が増えて来ます。赤ちゃんは、新陳代謝が激しいため、汗をかきやすく皮脂も分泌が盛んです。生まれて間もないお子様は、寝返りもあまりしないため、決まった方向に顔を向けて眠っていると、下になっている方の耳がじゅくじゅくしてくることがあります。赤ちゃんの外耳炎です。においも強く、心配されますが、たいてい耳に入れるお薬（耳浴液）でよくなります。

外耳炎は、若い方からご年配の方まで見られますが、大人の場合は、耳掃除が好きで、しょっちゅうする習慣がある場合に起こりやすいです。掻きすぎて、耳の皮膚が傷つき、汁のような物（滲出液）が出て、固まります。その塊をまた掃除してはがし、汁が出て・・・の繰り返しになります。通常、ステロイド軟膏で改善しますが、次のような治りにくいケースもあります。

一つは、かき傷から細菌が入り、化膿してしまう場合です。耳だれが出て、かなり痛みを伴います。ひどい場合、膿が溜まった腫れ（耳せつ）が出来ることもあります。きれいになるまで1週間ほどかかります。抗生剤を使った治療をします。

次にやかかいなのは、耳の中にカビが生えるケースです。もともと、よく耳を触り、ただれてじゅくじゅくした状態があると、湿って温かい耳の中に、カビが付いて増殖します。強いかゆみと痛みが現れます。耳の中をのぞくと、白い綿のようなカビや、黒いツブツブのようなカビなどが生えているのが分かります。きれいに洗ってカビを取り除き、カビをやっつける耳浴液を使って治療をしていきます。カビの場合はしつこく、1ヶ月前後はかかります。

もともと、アレルギー体質で、皮膚がかゆくなりやすい人は、耳もかゆがります。特に湿疹や耳垢がなくても、皮膚自体がかゆいので、掻いて、やはり傷をつけてしまいます。このような方に

は、抗アレルギー剤を内服して頂き、かゆみを抑えつつ耳の炎症を治していきます。

いずれの外耳炎も、すべて自分で掻いてしまって起こる病気です。なるべく触りすぎないように、気をつけてください。

<耳の前に小さな穴・・・先天性耳瘻孔>

耳の前に、小さな穴があいている人はいませんか？これは、生まれつきのもので、「先天性耳瘻孔（せんてんせいじろうこう）」といえます。もともと、お母さんのおなかの中で体が作られる途中、魚のえらのような部分があるのですが、普通生まれるまでに閉じてなくなるところが、閉じずに残ってしまったものです。耳の前だけでなく、耳のひだ状の部分とか、穴の近くに出来る人もいます。これも遺伝で、家族内に発生し、日本人は比較的高率に起こっています。穴からは、皮脂や汗など、白っぽいものが出てくることがありますが、特に心配はなく、いつも清潔にしていれば大丈夫です。しかし、時々触りすぎや、何らかの原因で、この穴から雑菌が入り、炎症を起こす人があります。穴は、奥でたこ足のようになっていたり、筒状であったりしますが、その中に膿がたまり、袋状になって腫れ上がる場合があります。こうなってしまった場合は、腫れた部分から膿を注射器で吸い取り、飲み薬や注射で抗生剤を使って炎症を抑えていきます。だいたい1週間前後で落ち着きます。繰り返し感染を起こす人は、穴自体を取ってしまう手術を受けて頂くこともあります。炎症も、少し赤みがあって痛いかな・・・というくらいで治療を始めれば、膿がたまるまでに治ることが多いので、できれば早めにご相談ください。

（文責：坂井田）